

人間福祉学部共生社会学科の教員養成に対する理念と育てたい教員像

共生社会学科の教員養成の理念は、社会福祉を基盤として人権を尊重し、福祉問題に心理学の知識や援助技術の側面からアプローチし、地域社会に貢献する人材を養成することです。

社会生活環境の大きな変容の中で、学校においても、家庭での児童・生徒の虐待問題、障害のある子どもの家族の問題、親の養育上の悩みに関する問題など、様々な福祉問題に取り組むことが求められています。

これらの福祉問題には、心理学的背景が関わっていることが多く、教師は、教科の専門的知識だけでなく、カウンセリングなどの援助技術を身に付け、児童・生徒に加えて保護者の支援も行うことが求められています。

近年、特に障害者や高齢者など、支援を必要とする人々への指導・支援のあり方をめぐっては、個別のニーズに合わせた指導計画・支援計画の作成・活用が求められるようになっており、そのための「個別のニーズのアセスメント」を行う能力の向上が必須となっています。この「アセスメント能力」の向上には、心理学的なアプローチが有効なことは言うまでもありません。

共生社会学科の教育課程は、中学（社会）、高校（公民）、高校（福祉）、特別支援学校（知的障害者・肢体不自由者）といった教員免許状が取得できる多様なカリキュラムの編成となっており、共生社会学科の学生は個別の課程を履修しながら専門性を身に付け、学際的な視点で人間および人間社会への総合的な理解力を養うこととなります。

そのため、共生社会学科の科目配置は、地域社会、学校、企業における様々な福祉問題や、人間関係問題に対応するために、福祉学と心理学に関する多様な科目配置となっています。また、特別支援の教育現場で活躍する人材を育成するための科目が配置されています。さらに、様々な福祉問題の背景にある政治・経済・歴史・地理などの社会問題を理解していくための科目が専門科目として配置されています。

心理学の知識と技術を兼ね備え、福祉マインドを身につけ、教育への高い志を持って、特別支援の教育現場において専門教育に関わったり、あるいは、中学・高等学校の教育現場での教育に関わったり、大学教育で学んだことを教育の実践の場で生かせるような人材の養成を目指しています。以上のように、本学科では、臨床現場で必要とされる心理学的知識や援助技術を身に付けた、より専門性の高い教員の養成を目指しています。